

vesicular body を含む lysosome・ビメンチンと思われる10nm フィラメントや fibril material が認められた。基底膜様物質は明らかではなかった。以上の結果より、悪性血管周皮腫・悪性神経鞘腫・平滑筋肉腫よりも悪性線維性組織球症の可能性が考えられた。

## 9. 真珠腫性中耳炎と思われた keratoacanthoma の1症例

(耳鼻咽喉科)

内野 盛恵・児玉 章・石井 哲夫

真珠腫性中耳炎や慢性中耳炎、中には、根治的手術療法を行っても、再発性、難治性のももあり、生検を繰り返し行っていくうちに、squamous cell carcinoma などの悪性腫瘍と診断されるものがある。

今回私達は、真珠腫性中耳炎と診断され、その後難治性の経過を繰り返し、頭蓋内浸潤を合併して死亡した、最終的には keratoacanthoma と診断された1症例を経験した。

第1回手術時生検の病理標本は、真珠腫の吸収性肉芽性病変が主体であったが、第3回手術時生検では、細胞の異型性は殆んど示さず、扁平上皮組織という組織構成を保ちながらも、基底細胞層や有棘細胞層の肥厚、高度の過角化を伴っており、骨髓腔は角化物質で充満していた。病理解剖における側頭骨病理標本でも、やはり第3回手術時と同様の組織所見であったが、まさに腫瘍と呼べる様相で側頭骨さらに小脳へと連続性浸潤していた。最終的には keratoacanthoma を確定された。

## 10. Ki-67を用いた皮膚腫瘍の免疫組織化学的研究

(皮膚科) 鳥飼 抄順

Ki-67マウスモノクローナル抗体は、増殖期細胞の核抗原と反応し、休止期細胞とは反応しないとされている。我々は皮膚上皮性腫瘍の増殖能の検討をこの Ki-67抗体を用いて行なった。当科で生検および切除した正常皮膚2例、脂漏性角化症3例、ケラトア坎トーマ3例、ポーエン病4例、基底細胞癌4例、有棘細胞癌4例を対象とした。染色は Ki-67を1次抗体として、ABC法で行った。正常皮膚、脂漏性角化症、また時に組織学的に有棘細胞癌と鑑別を要するケラトア坎トーマは、陽性率5%以下、その他基底細胞癌、ポーエン病、有棘細胞癌の順に陽性率が高くなり、組織学的悪性度との相関関係が見られた。これらの結果より皮膚腫瘍の増殖能、悪性度の指標として Ki-67は有効であると考えた。

## 11. 子宮原発悪性リンパ腫の2例

(産婦人科, <sup>1</sup>第2病理, <sup>2</sup>病院病理)

島 由実子・滝沢 憲・尾崎 郁枝・  
井口登美子・武田 佳彦・西川 俊郎<sup>1</sup>・  
笠島 武<sup>1</sup>・河上 牧夫<sup>2</sup>

子宮の悪性リンパ腫は極めて稀な疾患である。症例1は80歳で不正性器出血と下腹部痛を主訴に当科を受診した。内診で小成人頭大の子宮を触れたが、症状の増悪するまで約2カ月入院を拒否し、入院後は腎不全の治療のみで第9病日に心不全で死亡した。子宮頸部生検では組織の浮腫、変性が強度なため診断困難であり、子宮内膜スミア、腹水スミアで中型の異型リンパ球を認め悪性リンパ腫が疑われた。剖検で子宮は1.6kgあり、漿膜近くまで異型リンパ球の浸潤を認めた。LCA染色と B<sub>1</sub>染色が陽性、CD4染色が陰性であったので、中型Bリンパ球びまん性悪性リンパ腫と診断された。症例2は36歳であり不正性器出血を主訴に近医を受診し、子宮内膜診査切除により悪性リンパ腫を疑われ当科に紹介された。内性器全摘出術で得た子宮は180gで内膜はポリープ状で、小型異型リンパ球が子宮筋層を破壊しながら増殖していた。症例2も5カ月後に腹部に再発を認め1年後に死亡した。

## 12. サイクロスポリン治療中に腎機能低下を呈したベーチェット病の1例

(第4内科)

内藤 隆・佐藤 孝子・小俣 正子・  
樋口千恵子・松村 治・湯村 和子・  
佐中 孜・二瓶 宏・杉野 信博

今回、我々はサイクロスポリンの慢性毒性による腎障害と思われたベーチェット病の1例を経験したので報告した。経過中に四主症状が出現した完全型ベーチェット病の男性に対し、網膜ぶどう膜炎の改善をはかり、サイクロスポリンを600mg/dayから、約5年間漸減投与されていた。しかし、徐々に腎機能低下を認めたため、1990.4.5. 経皮的腎生検を施行した。

糸球体の変化は乏しく、尿管管では、上皮の変性、萎縮、間質は線維化、細胞浸潤を認めた。血管系では、細動脈レベルで内皮下の硝子様物質の沈着、中膜平滑筋細胞の空胞状変性がみられた。

これらの所見は、サイクロスポリンによる慢性腎毒性に伴う細動脈、尿管管、間質の変化に類似したものと考えられた。

## 13. 心筋症モデルの可能性—Feline Restrictive Cardiomyopathy の1剖検例—

(実験動物中央施設, <sup>1</sup>病理学第2講座, <sup>2</sup>麻布